

入域観光客統計概況

—平成15年1月分—

沖縄県観光リゾート局

1月の入域観光客数は379,800人で、同月の過去最高となった。

- ・前年同月比は+13.4%(+44,900人)
- ・平成13年同月比では+10.2%(+35,300人)

1. 空海路別入域状況

空路：376,100人 前年同月比+13.8%(+45,500人)

海路：3,700人 前年同月比△14.0%(△600人)

2. 主要航路別入域状況

東京：167,200人 前年同月比+17.7%(+25,200人) 構成比44.0%

阪神：68,400人 前年同月比+15.3%(+9,100人) 構成比18.0%

福岡：51,100人 前年同月比+14.3%(+6,400人) 構成比13.5%

名古屋：32,100人 前年同月比+23.9%(+6,200人) 構成比8.5%

3. 概況と見通し

1月の入域観光客数については、年末年始の連休の日並びが良かったことや、昨年11月の新規航空路線の開設等により、前年を大幅に上回った。特に主要4航路については、全体の前年比を上回る好調な実績となった。

外国客については、空路が提供座席数の減少等により前年を下回り、海路については、クルーズ船の運行が昨年末に終了したことにより入域観光客数が大幅に減少し、外国客全体としても前年を大きく下回った。

今後の見通しとしては、国内客については引き続き航空輸送実績や個人旅行の予約状況が好調であり、順調に増加するものと思われる。

外国客については、海路は前年並みに推移するものの、空路が前年を下回ると予想され、外国客全体では低調に推移するものと思われる。

この結果、今後の入域観光客数は国内客の増加により好調に推移するものと思われる。

担 当：観光企画課 久保田

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 2月以降については、沖縄花のカーニバルの開催、プロ野球のキャンプ、美ら海水族館の高人気などにより明るい材料が見られるものの、4月以降については不透明である。

大阪事務所 (阪神地区)

- メディアや「花のカーニバル」の沖縄キャンペーンの効果が入域観光客数増へと繋がっている。
- 修学旅行、一般団体客が一昨年以上の伸びを示しており、その結果、入域観光客数増へと繋がっている。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 2月以降も昨年を若干ながら上回る予約状況である。
- 3月以降は団体客の入れ込みが低調であり、前年並みにとどまると思われる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 今年度から本格的に販売された6泊7日のロングステイプランや、パークゴルフプランも道内の高齢者層を中心に人気を集め、観光客増加の一因となった。
- 2～3月にかけて、道内から沖縄への観光客は最盛期を迎え、現在のところ予約状況は順調であり、昨年とほぼ同水準で推移する見通しである。

2. 海外

台湾事務所 (台湾地区)

- 台湾から日本方面への春節チャーター及び臨時便はほとんど北海道方面に集中する状況となっている。
- 沖縄観光コンベンションビューローによる、「台湾特別キャンペーン」の取り組みが始まっている。メディアミックス広告事業として、新聞、雑誌などに集中的に沖縄観光の情報を掲載し、また、特典ブックの配布、旅行商品パンフレットの作成により集客を図る。

韓国事務所 (韓国地区)

- 沖縄への送客については、ゴルフやハネムーン商品のPRに取り組んでいる。ゴルフは3月以降になると減少するが、ハネムーンがシーズンを迎えるので、ハネムーン新目的地としての沖縄のイメージ作りに期待している。

入域観光客統計概況

—平成15年2月分—

沖縄県観光リゾート局

2月の入域観光客数は399,400人。前年同月比は+1.0% (+3,800人)で、同月の過去最高記録となった。
1～2月の累計入域観光客数は、779,200人。前年同期比は+6.7% (+35,300人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：396,500人 前年同月比+1.8% (+7,200人)

海路：2,900人 前年同月比△54.0% (△3,400人)

2. 主要航路別入域状況

東京：176,200人 前年同月比+0.8% (+1,400人) 構成比44.1%

阪神：74,100人 前年同月比+12.3% (+8,100人) 構成比18.6%

福岡：53,700人 前年同月比+1.3% (+700人) 構成比13.4%

名古屋：33,900人 前年同月比+11.5% (+3,500人) 構成比8.5%

3. 概況と見通し

2月の入域観光客数の概況は、国内客については阪神、名古屋の主要2航路の大幅な増加や、花巻、青森の2航路の期間運航開始などにより、前年を上回る好調な実績となった。

一方、外国客については、旧正月の時期が昨年と異なることや、空路においては提供座席数の減少、海路においては昨年は大型クルーズ船の寄港があったことなどにより、前年を大きく下回った。

今後の見通しとしては、国内客の航空輸送実績や個人旅行の3月の予約状況は好調であり、4月からの福岡路線の増便や5月から台湾のクルーズ船の運航が再開されるなどの増加要因がある。

一方、昨今の国際情勢から本県への修学旅行等にも一部影響が出ており、入域観光客数の変動要因になるものと思われる。

担 当：観光企画課 久保田

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- パーソナル商品は相変わらず好調であり、3月以降も同様に推移すると思われる。その要因として格安商品等による企業間競争等が挙げられる。
- 国際情勢の変化等により4月以降については、不透明である。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 航空運賃、旅行商品の低価格化が、若者を中心とした旅行消費者の集客増に貢献。
- 4月から、JAL、ANAの福岡ー那覇路線が各1便増便されるので観光客増が期待できる。
- 4月は、離島商品が増加傾向にあり、昨年の倍以上の予約状況である。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 昨年はテロ対策により、低価格の商品を投入したが、今年もそれに近い低価格の商品を投入したため、好調な結果となった。
- 3月は価格の上がる春休みの動きが鈍いが、前年を上回ると思われる。4月以降について、キャリアは団体の入込客数はほぼ前年並みで個人客が若干減少との予想であるが、エージェントの販売状況は沖縄に限らず、海外、国内とも低調な予想である。イラク戦の影響は予測できない。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 避寒地としての沖縄需要に対し、ロングステイプラン (6泊7日) や「花」をキーワードにした商品が投入されており、3月までは当面堅調に推移する見通しである。
- 3月までは昨年並みで推移する見通しであるが、4月以降は他の商品 (桜、海外等) との競合等により弱含みで推移することが予想される。
- イラク攻撃に関連したキャンセルについて、現時点での情報はない。

2. 海外

台湾事務所 (台湾地区)

- 台湾では現在「沖縄特別キャンペーン」を実施している。新聞2紙、雑誌11誌への広告掲載のほか、特典ブックの配布、旅行商品パンフレットの作成等の事業がすでに実施されている。
- このキャンペーンは当初3月末までの予定であったが、OCVBでは旅行社及び消費者からの要望により6月末まで期間を延長することを決定した。
- スタークルーズ社の定期クルーズは5月上旬より再開される。本年は、まず10月上旬まで那覇、石垣にそれぞれ週1回の寄港が予定されている。

香港事務所 (沖縄県) (香港地区)

- 空路での入域観光客数は前年を上回っており、これは個人客の増加によるものと思われる。

入域観光客統計概況

—平成15年3月分—

沖縄県観光リゾート局

3月の入域観光客数は477,800人。前年同月比は+3.5%
(+16,000人)で、同月の過去最高記録となった。
1～3月の累計入域観光客数は、1,257,000人。前年同期比は
+5.4%(+64,700人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：472,700人 前年同月比+3.5%(+16,000人)

海路：5,100人 前年同月比±0.0%(±0人)

2. 主要航路別入域状況

東京：213,100人 前年同月比 +3.5%(+7,300人) 構成比44.6%

阪神：92,200人 前年同月比 +16.0%(+12,700人) 構成比19.3%

福岡：57,800人 前年同月比 △0.2%(△100人) 構成比12.1%

名古屋：41,300人 前年同月比 +9.8%(+3,700人) 構成比8.6%

3. 概況と見通し

3月の入域観光客数の概況は、国内客については、国際情勢の変化を要因として一部の団体客や修学旅行でキャンセルが発生したものの、個人客が好調に推移したことや、阪神、名古屋の主要2航路が大幅に増加したことなどにより、前年を上回る好調な実績となった。

一方、外国客については、空路が引き続き大幅に減少したことにより、外国客全体としても前年を大きく下回った。

入域観光客全体としては、国内客の増加により、昨年9月以降7ヶ月連続で各月の過去最高記録を更新する好調な結果となった。

今後の見通しとしては、イラク情勢に伴う団体客や修学旅行のキャンセルによる影響は残るものの、戦争の終結によりキャンセルの発生は終息に向かうものと思われる。

また、航空機の予約状況が好調に推移していることや、4月からの福岡路線の増便、海外から沖縄への振り替えなどの増加要因により、入域観光客数は引き続き順調に増加していくものと思われる。

担 当：観光企画課 久保田

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 航空運賃、旅行商品等の低価格志向により、個人客を中心に好調に推移、年度末における駆け込み販売も観光客増加の一因に挙げられる。
- 4月以降については先行き不透明であり、各エージェントとも上期の追加商品について販売に取りかかっているところである。

大阪事務所 (阪神地区)

- 3月決算時期のキャリアによる競争の結果、格安商品が増加し、沖縄への入域客数の底上げに繋がっている。
- イラク戦の影響で中学校の修学旅行の中止、変更があるが、一般客の増加でカバーされている。
- SARSの影響による海外から沖縄へのシフトが増加するものと考えられる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 4月からJAL、ANAの福岡ー沖縄間の各1便が増便されるので、観光客増が期待できる。
- 旅行代理店では、イラク戦争の終結が早まったことから、その影響は山場を越したと予測している。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 春休み期間に入るまでの3月前半は好調であったのが客数増員の要因
- 4月以降はもともと出足が鈍かったうえに、イラク戦争の影響もあり、ゴールデンウィークを除く4月から6月にかけては非常に厳しい。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 例年3月は道内の沖縄観光需要がピークに達する月であり、各旅行代理店とも「暖かい沖縄」を前面に主力商品として販売したことから昨年と同様の実績となった。
- イラク戦争と統一地方選挙の影響で4月前半は団体客を中心に需要減少となったため、前年同月比では若干減少する見込みである。
- イラク戦争の影響に関しては、団体客の一部に影響を及ぼしたものの、個人客にはあまり影響がなかったこともあり、軽微である。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 台湾キャンペーンの効果が出てきた矢先にイラク攻撃、SARSのダブルパンチを受けることとなった。SARS感染収束の見込みが明らかになるまでは、飛行機への乗り控えもなかなか収まらないと思われるが、苦境にある旅行者を支えるべく粘り強いキャンペーンを継続していきたい。
- スタークルーズ社の沖縄定期クルーズは5月より再開されるが、SARSの影響により、使用船が変更になった。

韓国事務所 (韓国地区)

- 3月はオフシーズンである上に、イラク攻撃やSARS、景気沈滞、為替急騰などの要因により沖縄への送客も影響を受けた。
- ハネムーンについてはプラス要因として作用している。4月13日の27組を始め、4月20日にも20組以上が沖縄を訪問する予定である。

香港事務所 (沖縄県) (香港地区)

- JAL直行便の運休に加え、SARSによる香港への渡航自粛や香港からの入境制限などにより、沖縄への送客は大幅に減少する見通し。5月に予定されていたドラゴン航空によるチャーター便は中止となった。

入域観光客統計概況

—平成15年4月分—

沖縄県観光リゾート局

4月の入域観光客数は368,000人。前年同月比は△3.2% (△12,200人)となった。
1～4月の累計入域観光客数は、1,625,000人。前年同期比は+3.3% (+52,500人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：364,000人 前年同月比△0.8% (△3,000人)

海路：4,000人 前年同月比△69.7% (△9,200人)

2. 主要航路別入域状況

東京：160,900人 前年同月比 + 0.8% (+ 1,300人) 構成比43.7%

阪神：71,200人 前年同月比 + 4.2% (+ 2,900人) 構成比19.3%

福岡：48,000人 前年同月比 + 4.6% (+ 2,100人) 構成比13.0%

名古屋：31,400人 前年同月比 △ 3.4% (△ 1,100人) 構成比 8.5%

3. 概況と見通し

4月の入域観光客数の概況は、国内客については、イラク戦争による団体客や修学旅行のキャンセル等の影響を受けたものの、主要航路である阪神、福岡航路が航空機の増便などで増加したことにより、国内客全体としては前年と同数の実績となった。

一方、外国客については、昨年は4月から台湾航路のクルーズが運航されていたことや国際情勢の影響などにより前年を大幅に下回り、その結果、入域観光客全体としても前年を下回ることとなった。

今後の見通しとしては、国内客については、イラク戦争に伴うキャンセルによる影響は残るものの、航空路線の拡充（羽田—那覇路線1日1便増、伊丹—那覇路線1日1便増、福岡—那覇路線1日2便増）などにより前年並みの実績で推移するものと思われるが、外国客については、SARSの影響により大幅な減少が見込まれる。

担 当 ： 観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント（要旨）

1. 国内

東京事務所（関東地区）

- 3月の反動で、4月は厳しい状況と予想されていたが、各エージェントによる競争の結果、入域客数の伸びに繋がった。
- キャリア、エージェントともSARSの影響で海外旅行は非常に厳しく、今後、国内へ販売戦略を変更する予定。
- あるキャリアは、6月～10月の期間、3日間の沖縄旅行を28,800円～145,800円で販売を行っているが、大変好調であると聞いている。

大阪事務所（阪神地区）

- アウトレットモール、美ら海水族館の知名度の浸透及びウェディングツアーも売れ出しており、じわじわと沖縄が浸透されている。
- SARSの影響による国内へのシフトは、大きな団体旅行の振り替えは予想したよりは少ない。

福岡事務所（九州・山口地区）

- 4月からJAL、ANAの福岡－那覇路線が各1便増便されたことにより、観光客増となった。
- 各エージェントの中国等への旅行は秋まで延期、若しくは国内旅行へ振り替える状況にある。また、沖縄－台湾の交流関係から、沖縄旅行に対する不安が出て来つつある。

名古屋事務所（沖縄県）（名古屋地区）

- イラク戦争による申し込み控えから前半のマイナスが大きく、戦争終結後は昨年並みに戻ったものの、4月の入域観光客数は前年を割り込んでしまった。
- 戦争終結後の申し込みは前年並みに戻っているため、5月以降は期待ができる。ただし、沖縄近隣の台湾がSARS感染地域となっているのは不安材料である。
- SARSの影響による海外旅行からの振り替えは何件もあったものの、全体を底上げするほどの数ではなかった。

北海道観光・物産情報センター（北海道地区）

- 5月は、例年沖縄が梅雨にあたるため観光客数が減少する時期ではあるが、今年は昨年よりも悪い状況が続いている。
- 海外旅行からのシフトも期待ほどは伸びておらず、戦争やSARSといったことが続き、旅行消費そのものが減少しているのではないかと考えられる。
- SARSに関しては、最近ニュースや特集番組で沖縄が取り上げられていることから、当センターへも相談が寄せられている。

2. 海外

台北事務所（台湾地区）

- SARSの感染拡大の影響により、これまでになかったような出国観光客の減少が起きている。政府観光局発表の4月の台湾の出国者数は、のべ23万2千358人。昨年同期の35.5%にまで落ち込んでいる。
- 県内の観光関連業者には台湾観光客の受け入れをしない施設などが出てきていることから、5月の台湾からの入域者は更に減少することになるものと思われる。今後、団体ツアーが全くのゼロになる状況が出てくる可能性もある。

韓国事務所（韓国地区）

- 4月に入り、海外旅行の自粛は目立つようになった。SARSに対する安全な地域へのニーズから、国内の済州島と沖縄、オーストラリアへの観光客が好調となった。
- ハネムーン商品が順調に販売されているので、結婚シーズンの5月までは好調を維持することとみているが、航空運賃の値上げにより、6月からは多少きつくなる見込みである。

入域観光客統計概況

—平成15年5月分—

沖縄県観光リゾート局

5月の入域観光客数は348,700人。前年同月比は+1.7%
(+5,700人)で、同月の過去最高記録となった。
1～5月の累計入域観光客数は、1,973,700人。前年同期比は
+3.0%(+58,200人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：341,400人 前年同月比+4.7%(+15,400人)
海路：7,300人 前年同月比△57.1%(△9,700人)

2. 主要航路別入域状況

東京：142,500人 前年同月比+7.5%(+10,000人) 構成比40.9%
阪神：72,400人 前年同月比+8.5%(+5,700人) 構成比20.8%
福岡：45,900人 前年同月比+2.5%(+1,100人) 構成比13.2%
名古屋：27,600人 前年同月比+9.1%(+2,300人) 構成比7.9%

3. 概況と見通し

5月の入域観光客数の概況は、国内客については、航空路線の拡充やSARSの影響による海外からの振り替えなどにより大幅な増加となった。特に主要航路である東京、阪神、名古屋航路では、国内客全体の前年比を上回る大幅な伸長となった。

航空輸送実績を航路別で見ると、特に石垣方面が前年比75.4%増加しており、路線の拡充が大きく寄与しているものと考えられる。

一方、外国客については、香港路線の運休(平成15年4月～)、SARSの影響による減便や運休などにより前年を大幅に下回った。

この結果、入域観光客全体としては、国内客の大幅な増加により外国客の落ち込みをカバーしたことにより、5月の過去最高記録を更新することとなった。

今後の見通しとしては、国内客については、航空路線の拡充(羽田—那覇路線1日1便増、伊丹—那覇路線1日1便増、福岡—那覇路線1日2便増)、官民あげての沖縄キャンペーン、海外からの振り替えなどにより引き続き好調に推移するものと思われる。

一方、外国客については、当面はSARSの影響により減少が続くものと思われる。

担 当： 観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント（要旨）

1. 国内

東京事務所（関東地区）

- エージェントによる独自商品の積極的な展開の結果、入域観光客数の伸びに繋がった。
- 海外旅行は依然厳しく、キャリア、エージェントとも国内へ向けて商品販売を開始しており、当面、沖縄への観光客数は堅調に推移すると思われる。
- トップシーズン到来に伴い、エージェントでは支店独自の沖縄キャンペーンの展開が増加傾向にあり、明るい材料が見られる。

大阪事務所（阪神地区）

- 長寿食、沖縄メロディ、美ら海水族館等の素材で沖縄志向が継続されている。
- キャリアが夏商品（沖縄キャンペーン）を展開し、夏場の需要喚起を図ることと、エージェントが沖縄旅行商品に販売重点を置いているため、見通しとしては順調に増加傾向で推移していくものと思われる。

福岡事務所（九州・山口地区）

- 航空路線の増便やエージェントの販売方針が海外から沖縄へと方向転換が図られたこと、デパートやスーパー等において沖縄ブームを反映して沖縄観光展が盛んに行われ、需要が掘り起こされた事により観光客が増加となった。
- 夏場の旅行商品として、沖縄旅行の商品企画や販売キャンペーンに取り組むエージェントが多く、また、リゾートホテルの予約状況も好調のようであり、今後も入域観光客数は順調な伸びで推移するものと考えられる。

名古屋事務所（沖縄県）（名古屋地区）

- 入域観光客数の増加は、キャリアの割引運賃を使った個人客の増加によるものと思われる。
- イラク戦争、SARSと続いた市況不安から、夏休みの予約状況に悪影響が出ている。ただし、各社とも海外旅行が売れないため、沖縄キャンペーンに例年以上の力を入れており、夏休みの予約が好転する可能性もある。

北海道観光・物産情報センター（北海道地区）

- 6月から8月まで直行便が運休となり、北海道内が観光シーズンを迎えることから、8月までの観光客数は例年通りで推移する見通しである。
- 7、8月は商品価格が高騰することや首都圏からの需要が大きくなることにより東京ー沖縄の座席が不足し、乗り継ぎのための座席確保が難しくなるといった事情も絡み、北海道からの観光客を増加させるのは厳しい時期となる。

2. 海外

台北事務所（台湾地区）

- 5月9日にWHOより台北地区への渡航延期勧告が出され、5月20日には県より来沖自粛要請が出され団体客は皆無となった。
- WHOの台湾に対する感染地域の指定は、6月14日に重度から中度に引き下げられ、渡航延期勧告についても6月17日には解除となった。

韓国事務所（韓国地区）

- 5月はハネムーンシーズンであるが、ハネムーン客がSARSの感染を避けて目的地を沖縄へと変更したことや、沖縄から韓国への旅行者の減少により、航空座席確保に余裕があったことから、入域観光客数が増加となった。
- 夏場の旅行シーズンもSARSのことから海外旅行を敬遠する日本人が沖縄に集中する見込みであって、ホテルの手配や宿泊料金アップで、韓国から沖縄への観光客は伸び悩む見込みである。

入域観光客統計概況

—平成15年6月分—

沖縄県観光リゾート局

6月の入域観光客数は360,200人。前年同月比は△1.7% (△6,100人)で、同月としては過去2番目の記録となった。
1～6月の累計入域観光客数は、2,333,900人。前年同期比は+2.3% (+52,100人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：357,300人 前年同月比+0.9% (+3,200人)

海路：2,900人 前年同月比△76.2% (△9,300人)

2. 主要航路別入域状況

東京：168,400人 前年同月比+1.9% (+3,100人) 構成比46.8%

阪神：70,300人 前年同月比+4.5% (+3,000人) 構成比19.5%

福岡：47,900人 前年同月比+4.6% (+2,100人) 構成比13.3%

名古屋：29,000人 前年同月比+2.5% (+700人) 構成比8.1%

3. 概況と見通し

6月の入域観光客数の概況は、国内客については、官民あがての誘客キャンペーンや航空路線の拡充、SARSの影響による海外からの振り替えなどにより引き続き好調に推移し、特に阪神航路、福岡航路は大幅な伸びとなった。

また、航空輸送実績を航路別で見ると、石垣方面が前年比67.5%と引き続き大幅な増加をしており、路線の拡充に旅行需要が結びついたものと考えられる。

一方、外国客については、SARSの影響を受けた交通機関の運休や減便などにより、大幅に前年を下回った。

この結果、入域観光客全体としては、国内客は前年を上回ったものの、外国客の大幅な落ち込みにより、前年同月をやや下回り、6月としては過去2番目の記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、航空路線の拡充や官民あがての沖縄キャンペーン、海外からの振り替えなどにより引き続き好調に推移するものと思われる。

また、外国客については、香港路線運休（平成15年4月～）の影響は残るものの、交通機関の通常運航再開により、SARSの影響から回復するものと思われる。

担 当： 観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント（要旨）

1. 国内

東京事務所（関東地区）

- 昨年より旅行商品は全体的に高く設定されているが、キャリア、エージェントの販売強化により、入域観光客の増加に繋がった。
- 夏の観光シーズンに入り、マスコミ媒体による沖縄の露出が出てきて、離島（八重山諸島）人気は急増している。
- 大手ホテルにおいては独自企画で沖縄フェア（琉球料理の紹介）を開催し、沖縄観光、物産の紹介が増えている。

大阪事務所（阪神地区）

- 本島を含め沖縄志向が続いている中でも、特に八重山への志向が大きい。
- SARSによる振り替えが、北海道や沖縄にシフトされたことによる増加。
- 今後は、JTAの伊丹－石垣線の就航（7月17日～）や「Dr. コトー診療所」の放映などの増加要因が見込まれる。

福岡事務所（九州・山口地区）

- 旅行代理店が、振り替え旅行に対し、沖縄旅行を積極的に販売したことが増加要因として挙げられる。
- 一般向けの下期商品や修学旅行商品プレゼンテーションが活発化しつつあり、資料要求が多くなっている。また、団体旅行商品で沖縄の特性を活かした健康をテーマにした体験型旅行商品の開発、販売が始まりつつある。

名古屋事務所（沖縄県）（名古屋地区）

- 7月から9月については、機材の大型化により提供座席が大幅に増加するため、今後も好調に推移するのではないかとと思われる。

北海道観光・物産情報センター（北海道地区）

- 直行便の運休時期にあたるため、乗り継ぎ地である東京、大阪での座席確保が難しい状況にある。
- 北海道内が過ごしやすい季節になるために、沖縄観光への関心が低くなる傾向にある。

2. 海外

台北事務所（台湾地区）

- SARS問題との関係で、台湾からの入域観光客数は史上最低となった。

韓国事務所（韓国地区）

- 入域観光客の増加要因としては、アジアナ航空のマイレージ割引キャンペーンによる家族連れの増加や、団体客の増加が大きな要因となっている。
- 9月からは再びハネムーンシーズンに入るが、沖縄へのハネムーン旅行誘致促進助成事業の成果により、沖縄がハネムーン目的地として認知されており、沖縄へのハネムーンも増加するものと思われる。

入域観光客統計概況

—平成15年7月分—

沖縄県観光リゾート局

7月の入域観光客数は451,300人。前年同月比は+13.8%
(+54,700人)で、同月の過去最高記録となった。
1～7月の累計入域観光客数は、2,785,200人。前年同期比は
+4.0%(+106,800人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：437,700人 前年同月比+13.9%(+53,300人)

海路：13,600人 前年同月比+11.5%(+1,400人)

2. 主要航路別入域状況

東京：210,700人 前年同月比 +9.2%(+17,800人) 構成比46.7%

阪神：85,100人 前年同月比 +21.1%(+14,800人) 構成比18.9%

福岡：54,000人 前年同月比 +20.3%(+9,100人) 構成比12.0%

名古屋：36,300人 前年同月比 +19.4%(+5,900人) 構成比8.0%

3. 概況と見通し

7月の入域観光客数の概況としては、国内客については、官民あがての誘客キャンペーンや航空路線の拡充などにより引き続き好調に推移し、特に阪神航路、福岡航路、名古屋航路は大幅な伸びとなった。

また、航路別の航空輸送実績では、石垣方面と久米島方面が大幅な増加をしており、離島志向の旅行需要が路線の拡充に結びついたものと考えられる。

外国客については、前年をやや下回ったものの、交通機関の通常運航再開により、回復傾向にあるものと思われる。

この結果、入域観光客全体としては、国内客の大幅な増加により7月の最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については航空路線の拡充や官民あがての沖縄キャンペーンなどにより引き続き好調に推移し、外国客については、空路の減少（ソウル路線の1便減便、香港路線の運休）による影響はあるものの、クルーズ船の予約状況が好調であり、前年並みに推移するものと思われる。

この結果、国内客の増加により、入域観光客全体についても好調に推移するものと思われる。

担 当 ： 観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 海外旅行からの振り替えにより、北海道や沖縄への入域客増に繋がり、特に離島は好調に推移している。
- マスメディアによる沖縄番組の放送など、沖縄音楽、健康食、エイサーに見られるように沖縄ブームが観光に好影響を与えている。
- ハイシーズンにおけるキャリアの増便により、入域客の増加が期待できる。

大阪事務所 (阪神地区)

- 離島志向の需要や美ら海水族館の誘客効果が継続していることが入域観光客の増加に繋がった。
- 伊丹－石垣路線の新規開設によって入域観光客数が増加した。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 健康ブームの中でデパートや大型量販店において、沖縄の健康・長寿資源を活かした沖縄物産・観光展が開催されたり、ホテルやレストランにおける沖縄料理フェアの開催で、沖縄観光の需要が掘り起こされたものと考えられる。
- 夏休み期間の福岡発着の航空予約は全般に好調で、特に沖縄路線は好調である。また、9月のホテル予約も順調に入っているようで、9月までは好調に推移するものとする。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 7月は機材の大型化による提供座席の増加があり、また、8月はJALが1便増便するなど更に提供座席が増え、それに伴う増員が期待できる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 9月は直行便再開による沖縄キャンペーンを各代理店が展開していることもあり、週末を絡めた予約は現在のところほぼ満杯という状況であることから、好調に推移する見込みである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 7月の台湾籍入域者数は、沖縄側の台湾観光客受入再開と台湾の夏休みが重なり、来沖者数は相当の回復を果たした。
- この夏も国内客の増加により、SARS終息で旅行マインドが上昇している台湾観光客に十分にホテルが供給できない状況が発生しており、一部旅行社からのクレームとなった。

韓国事務所 (韓国地区)

- 7月の入域観光客は前年同月より大幅に増加したが、大学の研修団や企業のインセンティブツアーが主な増加の要因といえる。
- 旅行需要は完全に回復しているものの、10月まではリゾートホテルが取れないことから、沖縄商品を扱っている旅行社が忌避している。

入域観光客統計概況

—平成15年8月分—

沖縄県観光リゾート局

8月の入域観光客数は531,600人。前年同月比は+5.1%
(+25,800人)で、同月の過去最高記録となった。
1～8月の累計入域観光客数は、3,316,800人。前年同期比は
+4.2%(+132,600人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：515,000人 前年同月比+5.9%(+28,500人)

海路：16,600人 前年同月比△14.0%(△2,700人)

2. 主要航路別入域状況

東京：234,300人 前年同月比+5.7%(+12,600人) 構成比44.1%

阪神：108,800人 前年同月比+3.2%(+3,400人) 構成比20.5%

福岡：63,500人 前年同月比+5.5%(+3,300人) 構成比11.9%

名古屋：46,000人 前年同月比+11.7%(+4,800人) 構成比8.7%

3. 概況と見通し

8月の入域観光客数の概況としては、上旬は台風の影響を受けたものの、全国的な沖縄ブームや、官民あがての誘客キャンペーン、航空路線の拡充などにより、国内客が引き続き好調に推移し、特に主要航路では、名古屋航路が提供座席数の増加により大幅な伸びとなった。

また、航路別の航空輸送実績では、石垣方面と久米島方面への増加が続いており、離島志向の高まりや航空路線の拡充が影響しているものと考えられる。

外国客については、旅行需要は回復しつつあるものの、航空路線の減少やクルーズ船が前年より小型化されたことなどにより、前年を下回った。

この結果、入域観光客全体としては、国内客の増加により8月の最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、路線の拡充や誘客キャンペーンなどにより、引き続き前年を上回る実績で推移するものと思われ、外国客については、空路の減少による影響はあるものの、クルーズ船の予約状況が好調であり、前年並みの実績が期待される。

この結果、国内客の増加により、入域観光客全体についても好調に推移するものと思われる。

担 当： 観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- キャリアやエージェントによる「夏の沖縄」キャンペーンや、沖縄の食文化、音楽、自然等が連日ブラウン管を通して流れるなど露出拡大の相乗効果の結果、旅行需要の喚起に繋がり入域観光客が増加となった。
- 沖縄観光は好調に推移している反面、ホテルのオーバーブッキングやレンタカー利用者への対応など、受入面での指摘がある。

大阪事務所 (阪神地区)

- 「沖縄」ブランドの食材、音楽、スローライフ等の認知で、沖縄への追い風が依然として続いており、入域観光客の増加に繋がっている。
- 沖縄、九州、北海道方面への9月以降の予約状況も好調であり、大きなマイナス要因がないことから順調に増加傾向で推移するものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 航空座席提供数の伸びと相俟って、大手旅行代理店等による沖縄旅行商品の販売を積極的に展開した事によって増加した。
- 今後の見通しは、修学旅行や大型コンベンションの開催等に支えられ、航空及びホテルの予約は前年を上回る状況にあるが、海外旅行の回復により、競合関係が一層厳しくなるものと予測される。
- 沖縄の特色である健康・長寿をテーマにした商品の販売が本格化しつつあり、9月からは、大手旅行代理店では長寿の島・沖縄に学ぶ健康の旅(3泊4日)を発売し、価格も128,800円の高価格商品となっているなど、質の高い観光を目指す沖縄観光に明るいニュースである。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 提供座席数の増加が入域観光客数増加の要因と見られるが、全国的に沖縄が絶好調であったため、ホテルの在庫が足りず、思うように営業できなかったとの意見もあった。次年度以降、夏期については、ホテルの在庫によって更なる増加が見込まれる。
- 9月以降、空路が減便(機材の大型化により提供座席数は増加)となったため、個人客の落ち込みが予想される。ただし、修学旅行等は前年並みの予約状況とのことである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 8月は、空路は前年並みまで回復したが、海路については、クルーズの使用船舶が小型化したことにより前年を下回った。
- 今夏、台湾では海外旅行需要の高まりがあったが、沖縄については予約が遅く、単価の低い団体客はホテルが取りにくい状態が続いた。

韓国事務所 (韓国地区)

- 8月の状況は、9月のお盆休みを前に海外旅行を控える傾向があったことや、東南アジアを中心とした低価格のパッケージ商品が旅行市場を主導したこと、沖縄でのリゾートホテルの手配がきつかったことから前年を下回った。
- 11月からはゴルフ商品を企画する旅行者も3、4社あり、リゾートホテルの手配も容易になることから、前年並みの実績が挙げられると考えている。

入域観光客統計概況

—平成15年9月分—

沖縄県観光リゾート局

9月の入域観光客数は493,000人。前年同月比は+11.0%
(+48,700人)で、同月の過去最高記録となった。
1～9月の累計入域観光客数は、3,809,800人。前年同期比は
+5.0%(+181,300人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：483,400人 前年同月比+12.7%(+54,600人)

海路：9,600人 前年同月比△38.1%(△5,900人)

2. 主要航路別入域状況

東京：230,600人 前年同月比+10.2%(+21,300人) 構成比46.8%

阪神：92,800人 前年同月比+22.8%(+17,200人) 構成比18.8%

福岡：59,300人 前年同月比+8.2%(+4,500人) 構成比12.0%

名古屋：39,600人 前年同月比+15.5%(+5,300人) 構成比8.0%

3. 概況と見通し

9月の入域観光客数の概況としては、宮古島を中心に台風14号の影響を受けたものの、夏場の旅行商品価格の高いピーク期から商品価格の安くなる9月への分散化傾向や全国的な沖縄ブーム、官民あがての誘客キャンペーン、航空路線の拡充などにより、国内客が引き続き好調に推移し、特に主要航路の阪神航路、名古屋航路では大幅な伸びとなった。

また、航路別の航空輸送実績では、石垣方面への増加が続いており、離島志向の高まりや航空路線の拡充が影響しているものと考えられる。

外国客については、旅行需要の回復により、空路は前年と同数の実績となったものの、海路についてはクルーズ船の寄港が沖縄本島のみとなったことにより前年を下回った。

この結果、入域観光客全体としては、国内客の大幅な増加により9月の最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、大型コンベンションの開催や修学旅行の増加、航空路線の拡充、誘客キャンペーンなどにより、引き続き前年を上回る実績で推移するものと思われ、外国客については、クルーズ船の寄港が本島のみとなつてはいるものの、使用船舶の大型化(10月20日～)により、前年並みの実績が期待される。

この結果、国内客の増加により、入域観光客全体についても好調に推移するものと思われる。

担 当：観光企画課 久保田

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント（要旨）

1. 国内

東京事務所（関東地区）

- キャリア、エージェントの沖縄キャンペーンによる露出拡大等で、沖縄への入域観光客は好調に推移している。
- 入域観光客数は過去最高を記録しているものの、ホテルでのオーバーブッキング等のクレームがあり、今後の沖縄観光に影響を及ぼすものと危惧される。

大阪事務所（阪神地区）

- 海外旅行が依然として振るわず、国内旅行へシフトされ、更にロング地域（沖縄、北海道）が安定した伸びを見せている。
- 修学旅行などの伸びが予想され、今後も増加傾向が続くものと思われる。

福岡事務所（九州・山口地区）

- 航空座席提供数の伸びと冷夏が相俟って、大手旅行代理店等が沖縄旅行商品の販売を積極的に展開したことにより、入域観光客数が増加した。
- 福岡市内の中学校では、来年2月から3月に実施する修学旅行の事前学習が始まっており、資料提供や講師等の依頼が増えつつある。

名古屋事務所（沖縄県）（名古屋地区）

- 航空機の大型化による提供座席数の増加が入域観光客数増加の大きな要因となっている。
- 10月以降も個人型ツアーが順調に推移する見込みであるが、観光周遊型は貸切バスの台数不足もあり、苦戦が予想される。

北海道観光・物産情報センター（北海道地区）

- 9月は直行便再開によるキャンペーンにより、直行便・経由便を含め全体的に好調である。
- 沖縄観光に対する需要は旺盛であり、引き続き好調に推移する見通しであるが、宿泊先不足や修学旅行のピークとの重複による航空座席数の不足により、微増で推移する見通しである。
- 10月より、千歳－ホノルル路線が廃止されたことにより、避寒地商品が沖縄に振り替わるなど、沖縄にとって明るい兆しがある。

2. 海外

台北事務所（台湾地区）

- スタークルーズ社の宮古クルーズ（2泊3日）は2回のワンナイト公海クルーズに変更されたが、カジノを中心とする公海クルーズは販売が安定しており、マレーシアの本社が振り替えを決定した模様である。
- 10月以降については、空路での入域客数は前年並みに推移するが、海路は沖縄本島への寄港のみとなるため、昨年の半分程度にとどまるものと思われる。

韓国事務所（韓国地区）

- 9月は、お盆休みが5日間続いたことにより予約状況は良かったものの、台風の影響により予約者のほとんどがキャンセルしたため前年を下回った。
- 今後の見通しとしては、ハネムーンの問い合わせが増えつつあることや、ゴルフ客の伸びも期待できることにより、順調に推移するものと思われる。

入域観光客統計概況

—平成15年10月分—

沖縄県観光リゾート局

10月の入域観光客数は445,500人。前年同月比は+11.7%
(+46,600人)で、同月の過去最高記録となった。
1～10月の累計入域観光客数は、4,255,300人。前年同期比は
+5.7%(+227,900人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：436,800人 前年同月比+13.8%(+52,900人)

海路：8,700人 前年同月比△42.0%(△6,300人)

2. 主要航路別入域状況

東京：209,700人 前年同月比 +14.2%(+26,100人) 構成比47.1%

阪神：74,600人 前年同月比 +18.0%(+11,400人) 構成比16.7%

福岡：55,700人 前年同月比 +11.8%(+5,900人) 構成比12.5%

名古屋：33,900人 前年同月比 +8.3%(+2,600人) 構成比7.6%

3. 概況と見通し

10月の入域観光客数の概況としては、全国的な沖縄ブームや誘客キャンペーンによる効果、海外旅行からの振り替え、大型コンベンションの開催、修学旅行の増加、航空路線の拡充などにより国内客が引き続き好調に推移し、特に主要航路の東京航路、阪神航路では大幅な伸びとなった。

また、航路別の航空輸送実績では、石垣方面への増加が続いており、離島志向の高まりや航空路線の拡充が影響しているものと考えられる。

外国客については、空路は前年を上回ったものの、海路についてはクルーズ船の寄港が沖縄本島のみとなったことにより前年を下回った。

この結果、入域観光客全体としては、国内客の大幅な増加により10月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については航空輸送実績や旅行予約状況が好調であり、大型コンベンションの開催や修学旅行の増加などにより、引き続き前年を上回る実績で推移するものと思われる。

外国客については、空路では上海路線の増便により増加が見込まれるものの、海路ではクルーズ船の寄港が本島のみとなつてはいることが減少要因となっており、外国客全体としては前年並みの実績が期待される。

この結果、国内客の増加により、入域観光客全体についても好調に推移するものと思われる。

担 当 ： 観光企画課 久保田

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 各エージェントによる「10月まで泳げる沖縄」キャンペーンの実施や沖縄ブーム、修学旅行の増加等により、入域観光客が増加した。
- キャリアの増便、パーソナル商品の増加、離島志向の高まり等、今後も沖縄観光は好調に推移すると思われる。

大阪事務所 (阪神地区)

- 伊丹-石垣路線の増設により、離島への入域観光客が増加した。
- 3連休を利用したパッケージツアーが、好調に売り上げを伸ばした。
- 上期の好調が持続しており、今後も大きなマイナス要因がないことから、年末年始にかけて好調に推移するものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 入域観光客増加の要因として、沖縄ブームや航空路線の増便、キャリアやエージェントによる積極的な販売、健康・長寿資源の活用による中高年層の需要増加などが挙げられる。
- 団体旅行の予約が好調であり、入域観光客は好調に推移するものと思われる。
- 中国への旅行がビザ免除により回復基調にあり、また、今般の円高傾向により、海外との競合関係は一層厳しくなるものと考えられる。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 個人旅行の好調が増加の要因となった。今月についても個人型は伸びている。
- 今年は例年になく首都圏と関西圏が好調であったため、航空座席提供数が増加しているにもかかわらず、ホテルが確保できない状況であり、伸び率の減少につながった。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 10月の入域観光客数は、海外からのシフトや沖縄への関心の高まりによる個人客の増加、ホテルの確保が幾分容易になったこと、修学旅行の増加 (人数で約1割の増加) により、増加となった。
- 11月から12月上旬までは、個人客や修学旅行の増加により前年を上回る実績で推移する見通しである。
- 1～2月も団体客の予約は順調に推移しており、現在のペースは3月頃まで続くとしている。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 空路での入域観光客数は、トップシーズンが過ぎてホテルの確保が若干容易になったこと、祝日に合わせたチャーター便の運航により昨年を上回った。
- 中華航空の台北路線の搭乗率についても、中国東方航空との提携による沖縄乗り継ぎ上海路線の販売が始まったことにより、10月は76.8%まで上昇している。(昨年同月は68.8%)
- 台湾-上海間乗り継ぎ客の寄道観光を増やすためにも、OCVBでは11月15～18日の台湾最大の旅行博ITF台北国際旅展にて、寄港地上陸制度の活用による72時間ノービザ入国の広報を行った。

韓国事務所 (韓国地区)

- 入域観光客数の減少は、国内客の増加により宿泊施設の確保が難しくなったため、韓国のエージェントで沖縄商品の販売意欲が低くなったことによるものである。
- 11月については、オフシーズンのために旅行商品の価格が低くなることにより、予約状況は好調である

入域観光客統計概況

—平成15年11月分—

沖縄県観光リゾート局

11月の入域観光客数は428,100人。前年同月比は+8.5%
(+33,500人)で、同月の過去最高記録となった。
1～11月の累計入域観光客数は、4,683,400人。前年同期比は+5.9%
(+261,400人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路： 421,300人 前年同月比+10.0% (+38,200人)

海路： 6,800人 前年同月比△40.9% (△ 4,700人)

2. 主要航路別入域状況

東京： 191,900人 前年同月比 +11.9% (+20,400人) 構成比44.8%

阪神： 71,200人 前年同月比 +13.0% (+ 8,200人) 構成比16.6%

福岡： 61,800人 前年同月比 + 3.9% (+ 2,300人) 構成比14.4%

名古屋：32,300人 前年同月比 +11.8% (+ 3,400人) 構成比 7.5%

3. 概況と見通し

11月の入域観光客数の概況としては、国内客については、全国的な沖縄ブームや誘客キャンペーンによる効果、海外旅行減少の影響、航空路線の拡充などの増加要因に加え、全国生涯学習フェスティバルまなびピア沖縄やEMフェスタなどの大型コンベンションの開催、修学旅行の増加により引き続き好調に推移し、特に主要航路の東京航路、阪神航路、名古屋航路では大幅な伸びとなった。

また、航路別の航空輸送実績では、宮古方面と石垣方面が大幅に増加しており、離島志向の高まりや航空路線の拡充が影響しているものと考えられる。

外国客については、空路は前年を上回ったものの、海路についてはクルーズ船の寄港が沖縄本島のみとなったことにより前年を下回った。

この結果、入域観光客全体としては、国内客の大幅な増加により11月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については航空輸送実績や旅行予約状況が好調であり、引き続き前年を上回る実績で順調に推移するものと思われる。

外国客については、空路は上海路線の増便により増加が見込まれ、海路については、クルーズ船の寄港が本島のみとなっていることにより12月は前年を下回ることが予想されるものの、本年はクルーズ船の運航がなかった1～2月についても来年は運航が計画されていることから、外国客全体としても増加が見込まれる。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数については当面は好調に推移するものと思われる。

担 当：観 光 企 画 課 久 保 田

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 海外旅行からの振り替え、沖縄ブーム、修学旅行の増加、キャリアやエージェントによる積極的な販売競争により、入域観光客の増加につながった。
- 円高の影響、ハワイ、グアム、サイパンへの旅行需要が回復基調にあり、今後、海外との競合が一層厳しくなるものと思われる。

大阪事務所 (阪神地区)

- メディアによる沖縄情報がコンスタントに伝えられ、追い風が持続している。
- 北陸、東北方面の積雪が遅く、スキー客等が沖縄へシフトしたことも増加の要因となっている。
- 来年は、アテネオリンピックに向けてキャリア、エージェントが大がかりな海外旅行キャンペーンを打つことが予想される。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 増加要因としては、海外旅行の手控え、修学旅行や団体パッケージ旅行、大型コンベンションが好調に推移したことが挙げられる。
- 健康志向が高まる中で、健康、長寿、癒しの島沖縄のイメージを定着させ、新たな需要を掘り起こしたことが増加の要因になったと考えられる。
- 沖縄観光は好調さを維持するものの、海外旅行の復調により、これまでの伸び率は鈍化するものと予測される。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 個人型の旅行が好調に伸びた結果、観光客の増加につながった。一方、ツアー型は下落傾向が続いている。沖縄に限らず、北海道やその他地域もこの傾向にある。
- 今年の沖縄の好調は、海外からの振り替えが多かったことも一因であり、海外ツアーも年末年始に掛けて客足が戻ってきていることから、今後は今年ほどの好調は望めない。
- 今年の好調を受けて、4月以降は航空料金や宿泊レートの値上げ傾向がかなり強く、厳しい状況にある。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 海外旅行回復の遅れから国内へのシフトが続いており、沖縄への需要も高いものとなっている。
- メディアの露出度の高さも需要を押し上げる大きな要因となっている。
- 1～2月にかけては札幌圏以外の地方で、団体客を中心に予約は順調に推移しており、個人客の動向次第では昨年同期を上回るものと考えられる。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 旅行社のテレビショッピングによる沖縄ツアー販売の取り組みなどにより、昨年を若干上回る数字となった。上海への乗り継ぎ便利用者の増加により、台湾ー沖縄間の航空路線の利用率も上昇してきている。
- 定期クルーズについては、2月末までのクルーズが販売されており、石垣へのニューイヤークルーズも予定されている。
- SARS感染の形態や予防方法などが相当に周知されており、現時点では旅行マインドには全く影響は出ていない。春節(旧正)時期の販売も好調である。

韓国事務所 (韓国地区)

- 11月はホテルの確保も少しは良くなった上に、ゴルフ客や小規模のインセンティブツアー、パッケージ商品の販売などにより増加となった。
- 来年1月から2月にかけて、ボーイスカウト200名の団体の来県が決定。

入域観光客統計概況

—平成15年12月分—

沖縄県観光リゾート局

12月の入域観光客数は401,300人。前年同月比は△2.7%
(△11,200人)で、同月としては過去2番目の記録となった。
平成15年の入域観光客数は、5,084,700人。前年比は+5.2%
(+250,200人)で、年間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：395,000人 前年同月比△1.4% (△5,700人)

海路：6,300人 前年同月比△46.6% (△5,500人)

2. 主要航路別入域状況

東京：181,300人 前年同月比 + 1.7% (+3,100人) 構成比45.2%

阪神：71,400人 前年同月比 △ 2.7% (△2,000人) 構成比17.8%

福岡：52,600人 前年同月比 △ 4.2% (△2,300人) 構成比13.1%

名古屋：32,700人 前年同月比 △10.2% (△3,700人) 構成比 8.1%

3. 概況と見通し

12月の入域観光客数の概況としては、国内客については、沖縄文化等への全国的な関心の高まりや修学旅行の増加などにより中旬までは好調に推移していたものの、旅行商品価格の高い年末期間を敬遠する傾向や海外旅行の回復による影響などにより下旬は大きく前年を下回ったことにより、月間としても前年をやや下回った。

外国客については、空路は前年並に推移したものの、海路については離島へのクルーズ船の運航がなくなったことにより前年を下回った。

この結果、入域観光客全体としても前年を下回り、12月としては過去2番目の記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、沖縄文化等への全国的な関心の高まりやコンベンションによる増加が見込まれるものの、海外旅行の需要回復や円高傾向による海外旅行との競合の激化などにより伸び率は鈍化するものと思われる。

外国客については、空路は上海路線の増便により増加が見込まれ、海路については、昨年はクルーズ船の運航がなかった1～2月についても本年は運航されていることから、外国客全体としても増加が見込まれる。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数については当面は好調に推移するものと思われる。

担 当：観 光 企 画 課 久 保 田

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 修学旅行の増加、パーソナル商品の好調等により観光客の増加につながった。
- ハワイ、グアム、ソウルへの低価格商品及び旅行需要の回復基調等が見られ、海外との競争の激化が予想される。

大阪事務所 (阪神地区)

- 9月～11月まで部屋の確保が困難であったため、新規の送客が伸びず、メディアエージェントの販売意欲減退に繋がった。
- ハワイ、サイパンなどの海外旅行が年末年始に予想以上に伸びるなど、今後も厳しい競争が予想される。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 航空座席予約の手仕舞いの変更により、購買発生の遅い福岡では、商品販売に大きな影響を受けた。
- 国民の旅行慣れと周遊型観光への敬遠から、従来の周遊型メディア商品の販売不振も減少要因の一つである。
- 競争するハワイ、グアム、ニュージーランド、オーストラリア等の年末の好調な海外旅行の影響を受け、下旬から年末の商品販売の伸びが鈍化した。さらに最近の円高傾向で、海外旅行復調のスピードは一層速まるものと予測される。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 年末年始の海外旅行がかなり復調したことで航空機の提供座席数減少の影響により、前年から大きく落ち込んだ。
- エージェントによるエスコート型商品があまり売れていないが、商品のマンネリ化が影響しているのではないかと懸念されている。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 台湾からの空路での入域観光客数は、上海への乗り継ぎ客に押される形で昨年に比べて微減となった。
- 本年の春節 (旧正月) が1月下旬となっていることや、昨年は運航がなかった定期クルーズが本年は運航されることにより、1月の入域観光客数は増加が見込まれる。

韓国事務所 (韓国地区)

- 12月はホテルの確保がわりと良くなったことにより、旅行社のパッケージ商品販売やゴルフ商品の販売が順調であった。
- 1月は韓国松波地区からのボーイスカウト200名の送客や100名ほどのパッケージ商品による送客が決定している。